

地域SNSを生かした地域の活性化

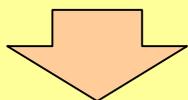
平成19年6月1日

兵庫県企画管理部長 牧 慎太郎

地域社会への住民参画が求められる時代背景

地方分権の推進

- 地方自治体の担うべき行政範囲の拡大



- 住民自治の充実

国の関与の縮小

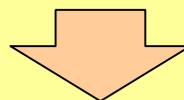
住民のチェック

住民の意向を反映した行政を展開する必要性

地方行政

2007年問題

- 少子高齢化、人口減少社会
- 団塊の世代の大量退職



- 地域コミュニティの活性化

税収の伸び悩み

行政以外の多様な主体によって地域社会を支えていく必要性

地域社会

ICTを活用した住民参画を促進

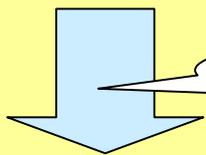
人と人をつなぐ
コミュニケーションツール

課題は
デジタルディバイドの解消

地域SNSの活用

ITからICTへ

行き過ぎた市場原理、競争社会、個人主義の弊害



人と人をつなぐコミュニケーションツールの活用

- 人と人のつながり、地域の絆の復活
- ソーシャル・キャピタル(信頼社会)の再構築
- 新しいコミュニティ形成の可能性



地域SNS

…社会的ネットワークをインターネット上に構築

- 時間的・場所的な制約を超えた情報交流空間
- 登録メンバーの顔が見えるコミュニティサイト

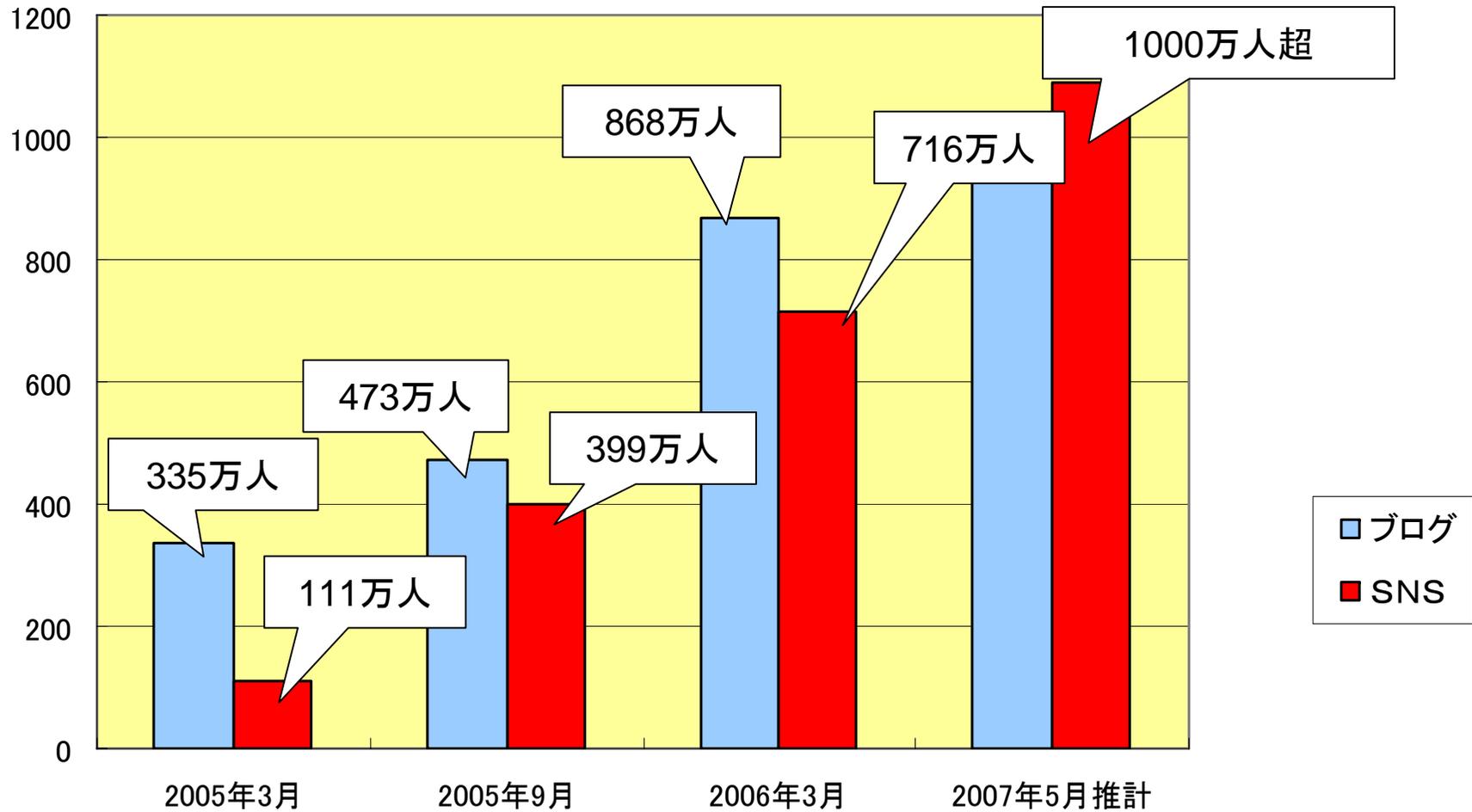
便利で安心

時空を超えた井戸端会議

SNS利用者数の増加

(万人)

※2006年3月までは、
「平成18年 情報通信に関する現状報告(総務省)」より
2007年5月分は上位社の集計より



最大のSNS「mixi」が1000万人超。20代前半の若者の約1/3が利用(mixi発表)

主な地域SNS

兵庫県内

名称	運営主体	運用開始	備考
ひよこむ	NPO法人はりまスマートスクールプロジェクト	2006年10月	会員数約2200
シヨコベ	シヨコベ有限責任事業組合	2006年1月	会員数約2000

兵庫県外(公的な運営主体)

名称	運営主体	運用開始	備考
ごろっとやっちろ	熊本県八代市	2004年12月	会員数約3000
ちよっピー	財団法人まちみらい千代田	2005年12月	会員数約2000
はちみーつ	八戸市	2006年11月	会員数約800
eじゃん掛川	掛川市	2006年11月	会員数約800
お茶っ人	京都山城地域SNS「お茶っ人」運営委員会(宇治市、八幡市、京田辺市)	2006年12月	会員数約800

財団法人地方自治情報センター調査では、全国で210の地域SNSが開設されている(平成18年12月)



ひよこむ (兵庫県エリアの地域SNS)

<http://hyocom.jp/>

ひよこむの特徴

信頼できるネットワークづくり

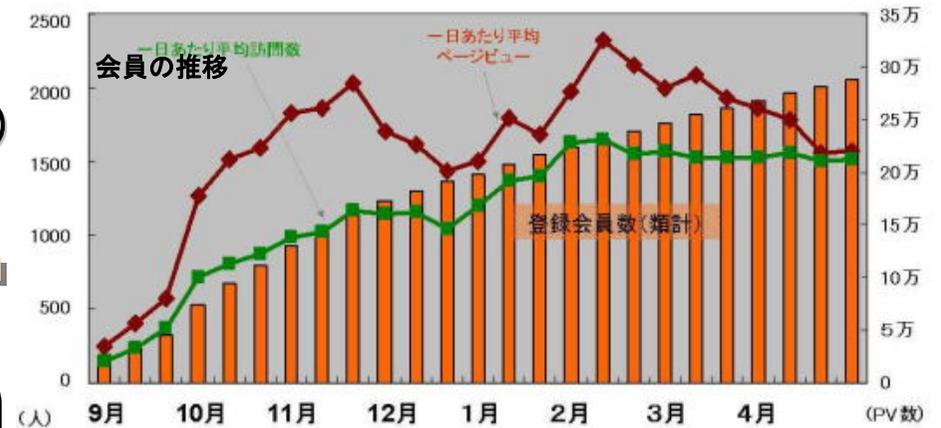
実名登録制、完全紹介制、後見人制
プロフィール、ブログ等のアクセスコントロール

充実したコミュニケーション機能

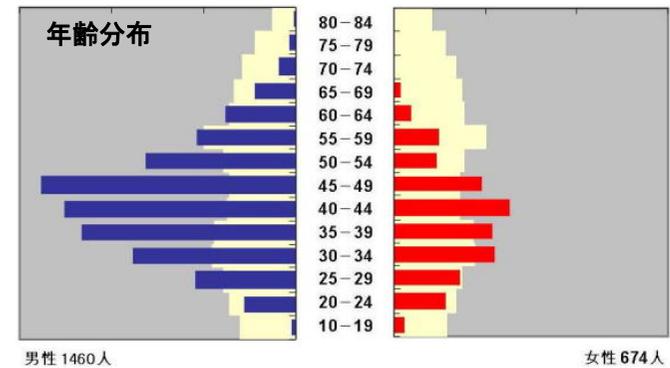
ブログ、コミュニティ、電子地図、カレンダー、メッセージ、あしあと、写真・動画登録、携帯電話対応、メール配信、地域通貨機能(検討中)

リアルな地域活動につながった事例

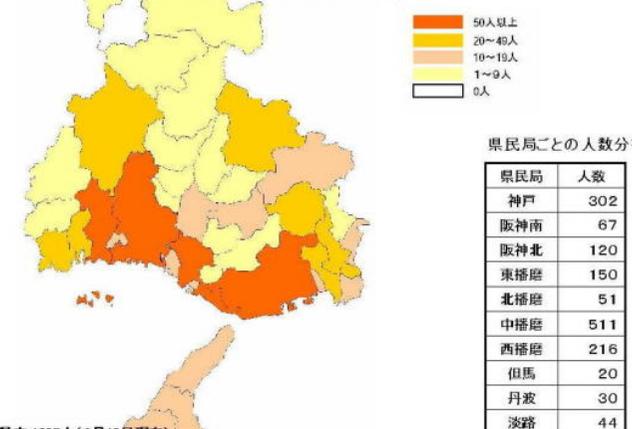
- 国際ため池シンポジウムやクリスマス会などの開催
- 1.17リアルタイムレポート
- 姫路おでん、姫路城の清掃活動、活動資源マッチング情報



平均年齢 42.30歳



ひよこむ会員の地域分布(県内)

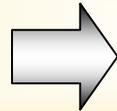


県内 1365人(4月16日現在)
姫路市498人、神戸市302人、たつの市96人、明石市57人、加古川市56人、宝塚市43、宍粟市42、伊丹市35、西宮市35人、赤穂市32人...

ICTを活用した地域通貨

地域通貨とは

特定の地域内などで限定的に流通し、法定通貨では表現されにくい「価値」を交換するための媒体



- コミュニティ活動の活性化
ボランティア活動の促進、コミュニティ・サービス事業の活性化など
- 地域経済の活性化
地域内消費循環の促進、地元商店街の振興、地産地消の促進など

地域通貨による社会的効用

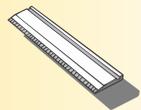
- 眠れる地域資源を掘り起こす～人的資源・余剰資源の有効活用
- 人と人をつなぐ～希薄化する地域コミュニティの再生
- 地域内循環の促進～環境に負荷を与えない循環システムの再生



持続的な地域社会の形成

貨幣の三つの機能

1. 評価



物品・サービスの価値を表現
(モノサシの機能)

2. 交換



物品・サービスの交換を仲立ち

3. 貯蓄・増殖



価値の記録・保存
(利子が発生)

「減価」とは

⇒「減価」とは、左記三つの機能のうち、3の機能を持たせなくすること

ICTの活用により
簡単に実現

兵庫県の取り組み

地域SNS活用モデル事業

■ 地域づくり活動を充実させるコミュニケーションツール

- ・ 県民の情報共有・地域参画のツールとして

■ 県政への活用

- ・ コウノトリ情報の発信、行革掲示板など

■ 地域SNSの可能性の検討

- ・ 地域SNS連携
- ・ 電子地域通貨

※ひよこむの特色ある機能

- ・ 地域通貨機能
- ・ アンケート機能
- ・ 携帯電話対応
- ・ 外部公開機能
- ・ 動画配信
- ・ 実名コミュニティ
- ・ RSS連携
- ・ ステルスコミュニティ など



地域SNS講習会

地域SNS全国フォーラム

2007年
8月31日(金)

兵庫県公館
(県庁南すぐ)



交流会(夕方)、オフ会(翌日)
も計画中

■ 全国の地域SNS紹介コーナー

■ パネルディスカッション

■ 分科会

- ・ コミュニティ活性化
- ・ 地域間交流の促進
- ・ 電子地域通貨との連携

兵庫発 会員制サイト人気

開設2カ月半で1000人突破

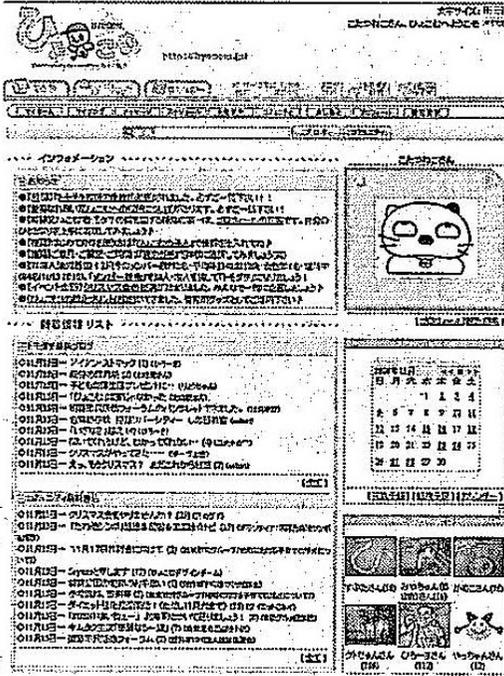
インターネットのサイト上で経歴などを公開しながら情報交換や交流をするソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS)。県や市、区など、自治体単位とした地域SNSが全国各地で増えている。兵庫県内ではこのほど、企業や県、研究者らが、地域活動を支援するSNS「ひよこむ」を開設した。信頼性を重視し、完全招待制で実名登録が必要と「敷居」が高いが、開設から二カ月半で会員千人を突破。まちづくりの議論や防犯情報など、密度の濃いやりとりが繰り返されている。(広岡磨瑠)

■ひよこむ■

主宰者は、姫路市在住のインターネットプロバイダー会社社長、和崎宏さん(四七)。

これまで行政などとともに、地域の情報化に取り組んできた和崎さんは、県立大大学院でもSNSを研究。人と人をつなぎ、関係を強めるSNSの特長が、地域に眠る「地域力」を自覚めさせるきっかけになるのではと着目し、今年四月ごろから準備。九月に百二人で仮オープンした。

現在、地域SNSは全国に約八十あり、最も規模が大きいのは三千人余



防犯など地域情報交換

りの会員がいる福岡県の「VARRY(ベリリ)」。県内では神戸の「シヨコベ」(約千八百人)がある。ひよこむの会員数は、増加のペースも速く、年明けには二人に達すると和崎さんは予測するが、「規模の小よりも、個人間の『紐帯』を太くする特性に意義がある」と話す。

現在、県民は会員の八割強。会員は、地域の安全・安心情報やグルメなど興味がある「ミニコミュニティ」に属し、情報交換、交流を深める。交流を通じ、新たな地域活動も生まれている。

県が小学校区単位のコミュニティ活動に助成する「県民交流広場」事業とも連携。県の牧慎太郎・政策局長は「人間関係の豊かな地域社会は、犯罪も起こりにくく、暮らしやすい。『ひよこむ』は地域活性化の一助になるはず」と期待を寄せた。アドレスは<http://hiyokomu.jp>

トップページでは、人や地域活動の動向が一望できる「ひよこむ」

2006年12月7日
神戸新聞

SNS県内版「ひよこむ」

「ひよこむ」は地域活動「ミーム」(姫路市)が開発の支援に向けて開設された。学校の同窓生探しや離れたSNSで、インターネット、名店情報、安全・安心情報、プロバイダ会社「インフォ」ボランティア情報などのテ

インターネット上で氏名や経歴などを公開し、情報交換する会員制ソーシャルネットワーク「ミーム」(SNS)の一つで、県内情報を集めた「ひよこむ」が好評だ。登録会員は約1000人を超え、見られないという安心感もあり、気軽に書き込み、本格稼働から約1か月半で会員は1000人を超えた。趣味や子育てのことなど、様々な人ネット共同体が生まれ、参加者が増え続けている。

会員1か月半で1000人超

2006年11月18日
読売新聞

インターネット上で氏名や経歴などを公開し、情報交換する会員制ソーシャルネットワーク「ミーム」(SNS)の一つで、県内情報を集めた「ひよこむ」が好評だ。登録会員は約1000人を超え、見られないという安心感もあり、気軽に書き込み、本格稼働から約1か月半で会員は1000人を超えた。趣味や子育てのことなど、様々な人ネット共同体が生まれ、参加者が増え続けている。

広がる「ネット共同体」

地域活性化に展開期待

阪神大震災の犠牲者をしのぶ行事が減り体験の継承が課題とされる中、地域SNS(ソーシャルネットワーク)サービスを活用した新しい形の追悼が始まる。地域社会の再生を目指す県職員有志や企業、市民グループなどが協力するSNS「ひよこむ」で、17日前後

SNSで震災追悼

県職員ら協力の「ひよこむ」 被災地の祈り 新手法で

の追悼行事に参加者がリアルタイムで報告し、インターネット上で震災の教訓を語り継ぐ。

ひよこむは昨年10月の開始以来、会員数1400人を突破した急成長中のSNS。県内全域の情報が交換できる上に実名登録と完全招待制で高い信頼性を誇り、まじまじりや地域防犯の話合いに役立っている。「犠牲になつた6434人への祈りを、追悼に出来ない人とも共有したい」「皆が助け合つて命をつないだ震災体験を地域ごとくに生かしたい」との声を受け、追慕の念や慰霊行事での思いを交わす「ミーム」

「ひよこむ」は地域活動「ミーム」(姫路市)が開発の支援に向けて開設された。学校の同窓生探しや離れたSNSで、インターネット、名店情報、安全・安心情報、プロバイダ会社「インフォ」ボランティア情報などのテ

2007年1月15日 毎日新聞

1・17情報共有へ ネットで追悼報告

会員サイト、新たな試み



大震災から十二年となる十七日、各地で震災関連行事が催されるのを受け、地域SNS(ソーシャル・ネットワーク)サービス「ひよこむ」を活用した新たな追悼の形が始まる。地域活動支援を担う、市民グループや企業、県職員有志が協力するSNS「ひよこむ」で、被災地などの行事に参加する面々が、会場の様子を写真や文章でリアルタイムで報告する。

SNSは、インターネット上で日記や写真などを公開しながら交流を深める会員制サービス。昨年九月に開設された「ひよこむ」は現在、県内外に約千四百六十人の会員がいる。地域活動やまちづくり、防災などテーマごとに分けられている「コミュニティ」で、情報の交換・共有をしている。

震災十二年を前に、慰霊の心や追悼行事の様子を共有しようとの機運がサイト内で高まり、システムが携帯電話から投稿できるようになったこともあり、「コミュニティ」17リアルタイムレポートを立ち上げた写真・メモリアルウォークなど震災関連行事に参加した人らが、携帯電話による画像や動画を発信。ひよこむ会員はパソコンや携帯電話で閲覧できる。

主宰する和崎宏さん(姫路市)は「あの日」を忘れないと、SNSを災害時の情報共有に役立てたい。いざという時に活用できるよう、「1・17」という大切な日に実証したい」と話している。

(広岡慶瑞)

2007年1月17日
神戸新聞